



〒104-0044  
 東京都中央区明石町10-1  
 聖路加国際大学礼拝堂  
 TEL 5550-2416  
 TEL 5550-7043  
 FAX 5550-7070  
 E-mail: chapel@luke.ac.jp  
 URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



旧館チャペル北側壁面の彫刻

**聖書を読む会**

リモート (Zoom) で行っています。

- 第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書 (上田司祭)
  - 第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書 (関司祭)
- ご関心のある方は、チャペルにお問い合わせください。

**巻頭メッセージ**

「人の子(イエス)は、失われたものを捜して救うために来たのである」(ルカ19:10)

**礼拝案内**

**月・火・木・金曜日**

■午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

**水曜日**

■午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜の礼拝は午前8時45分～

**日曜日**

感染予防のため休止になる場合があります。

■午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■午前10時30分 聖餐式・説教 臨時チャペル  
 感染予防対策のため予約制で行います

■午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

## 巻頭メッセージ

「人の子(イエス)は、失われたものを捜して  
救うために来たのである」(ルカ九:二〇)

司祭 バルナバ 関 正勝

を語ります。

婚約者マリアの聖霊による懐妊に悩み苦しむ夫ヨセフの絶望を希望へともたらしたのは、神自身のお告げ「見よ、おとめが身ごもつて男の子を産む。その名はインマヌエル」(マタイ一:二三、イザヤ七:一四)、「神は私たちと共におられる」という神の名である幼子の誕生でした。この幼子はインマヌエル・イエスと名付けられました。この幼子の誕生には世界と私たちの「痛みを知り・下つてこられる神・インマヌエル」の出来事が込められています。それゆえ、福音記者ヨハネは「言(神)は肉となつて、私たちの間に宿つた」(一:一四)と伝えていきます。この出来事は神が私たちの苦しみや痛みを生きて知っておられる方であることを語っています。まさに神は人々のところに「下つて」(肉となつて)、「失われた者を捜して、救うために来られた」神・インマヌエルの誕生が、クリスマスが出来事に他なりません。インマヌエルの名は、私たちを絶望の淵から希望へと導いてくれます。

クリスマスの出来事はエジプトでの過酷な奴隷生活を強いられていたイスラエルがモーセに導かれて脱出した出来事を想い起こさせます。やがてエジプト脱出の指導者となるモーセは神の山ホレブで神の声を聞きます。神は彼に言います。「私は、エジプトにおける私の民の苦しみをつぶさに見、追いつく者の前で叫ぶ声を聞いて、その痛みを確かに知った。それで、私は下つて行って、私の民をエジプトの手から救い出し」(出エジプト記三:七-八)、と解放をモーセに告げます。この神の言葉にモーセは「私は何者なのでしょう」と驚き逡巡しています。使命の大きさに立ち尽くし、絶望さえしかならない状態になつているモーセに神は「私はあなたと共にいる」と語り「私はい、という者である」という神の名を啓示して励まされます。この名は奴隷生活をしいられ苦しんでいたイスラエルの人々を、そしてモーセを絶望から希望へと立ち上げさせ、自由人としての尊厳を回復することを実現させた神の名でした。そして、この名は奴隷としての人々の「苦しみや痛みを確かに知った」と語り、「私は下つて行って、私の民を、……救い出す」神

このクリスマスの喜びが世界を包み、平和が一步でも実現しますようにお祈りします。